



小麦作の窒素化学肥料を25%削減！

－鶏ふんを利用した減化学肥料栽培技術の開発－

開発の背景・ニーズ

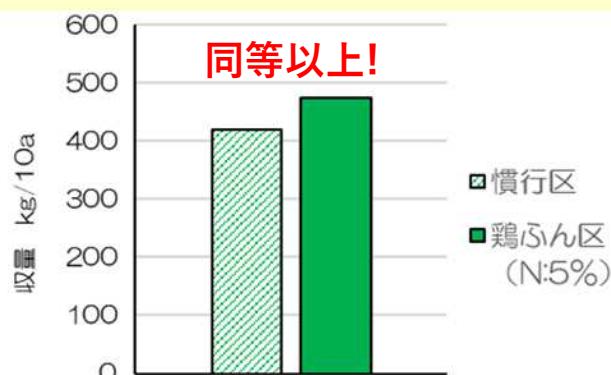
みどりの食料システム戦略により持続可能な農業を目指すため化学肥料の削減の方向性が示されたことを受け、有機質資材を活用することで、小麦「きぬあかり」について化学肥料を20%以上削減可能な施肥体系の開発に取り組みました。

成 果 の 内 容

基肥の化学肥料の半量を鶏ふんで代替することにより、慣行栽培と比較して、収量・品質を維持しながら窒素化学肥料を25%削減できることを実証しました。なお、併わせて鶏ふんの利用によりリン酸、カリの化学肥料についても施用が削減できることを示しました。

窒素・リン酸・カリの成分投入量

処理区	基肥施用量						分けつ期追肥 硫安 窒素 kg/10a	茎立期追肥 硫安 窒素 kg/10a		
	化学肥料			鶏ふん						
	窒素 kg/10a	リン酸 kg/10a	カリ kg/10a	窒素 kg/10a	リン酸 kg/10a	カリ kg/10a				
慣行区	8.0	8.7	2.7	—	—	—	4.0	4.0		
鶏ふん区	4.0	—	—	8.0	7.7	4.0	4.0	4.0		



鶏ふん代替による収量への影響



播種時の様子

愛知県農業への貢献

小麦「きぬあかり」において鶏ふんを活用することで、慣行栽培と同等の収量・品質を確保しつつ、窒素化学肥料を25%削減できます。これにより持続可能な農業の推進に資することが期待されます。

【農林水産省委託プロジェクト「輪作体系における持続的な小麦生産の実現に向けた減化学肥料・減化学農薬栽培技術の確立」にて実施した成果です】

作 物 研 究 部